

総合的な学習の時間の単元構想のための一考察 ～防災教育の視点をもった単元構想～

A Study Toward Building a Unit Plan for the Period of Integrated Study: A Unit Plan Through a Perspective of Disaster Prevention

山田 希代子

要旨

総合的な学習の時間では、実生活や社会との関わりを重視し、各学校・児童・地域の実態に即して課題を設定する。その目標と内容は、第1目標を踏まえ、各学校で定めるよう示されている。¹⁾ 各校の総合的な学習の時間の目標は、各校の教育目標をふまえ²⁾ その内容は探究課題と育成を目指す資質・能力の二つで構成する。どのような目標を設定し、どのような内容を取り上げ、単元を構想していけば、深い学びが達成されるのだろうか。現在、日本を襲う自然災害の増化・激甚化に伴い、防災教育を中心に「生きる力」をはぐくむ教育も求められ各校の力量が試されている。

総合的な学習の時間において、防災教育の視点をもった実践が数多く取り上げられている。探究的な学びを実現する防災教育の視点をもった単元構想の在り方を明らかにしていく。

キーワード：目標を実現するにふさわしい探究課題 防災学習 単元構想

はじめに

「異常気象 豪雨や猛暑の日本が世界で最悪の被害 独の環境 NGO」³⁾ ドイツの環境 NGO は今年（2019）12月4日のCOP25で去年1年間の異常気象による最も深刻な被害を受けた国は日本だったと発表した。平成7年（1995）阪神淡路大震災以来、平成20年（2008）岩手・宮城内陸地震、平成23年（2011）東北大震災、平成28年（2016）熊本地震とマグニチュード7を超える地震が続き、今年に入ってから台風15・19・21号と甚大な被害をもたらす大型台風が日本を襲ったのは記憶に新しい。

このような状況を踏まえ、中央審議会答申（平成28年）では、東日本大震災を例に挙げ、「子供達が起こりうる危険を理解し、いかなる状況でも自らの生命を守り抜く自助とともに、自分自身が社会の中で何ができるのかを考える共助・公助の視点からの教育の充実」⁴⁾ を教育の課題として挙げている。

従来学校では防災教育がなされてきたが、増加・甚大化する自然災害を受け、見直しが行われ、系統的な指導が行われるよう「発達の段階に応じた防災教育」において身に付けさせたい知識や能力が示された。⁵⁾ (図1) 学校における防災教育では、児童生徒等の災害に適切に対応する知識や能力を高めることに重きを置き、災害から身を守る知識の獲得や実際の訓練を授業で取り上げることが多い。

発達段階に応じた防災教育

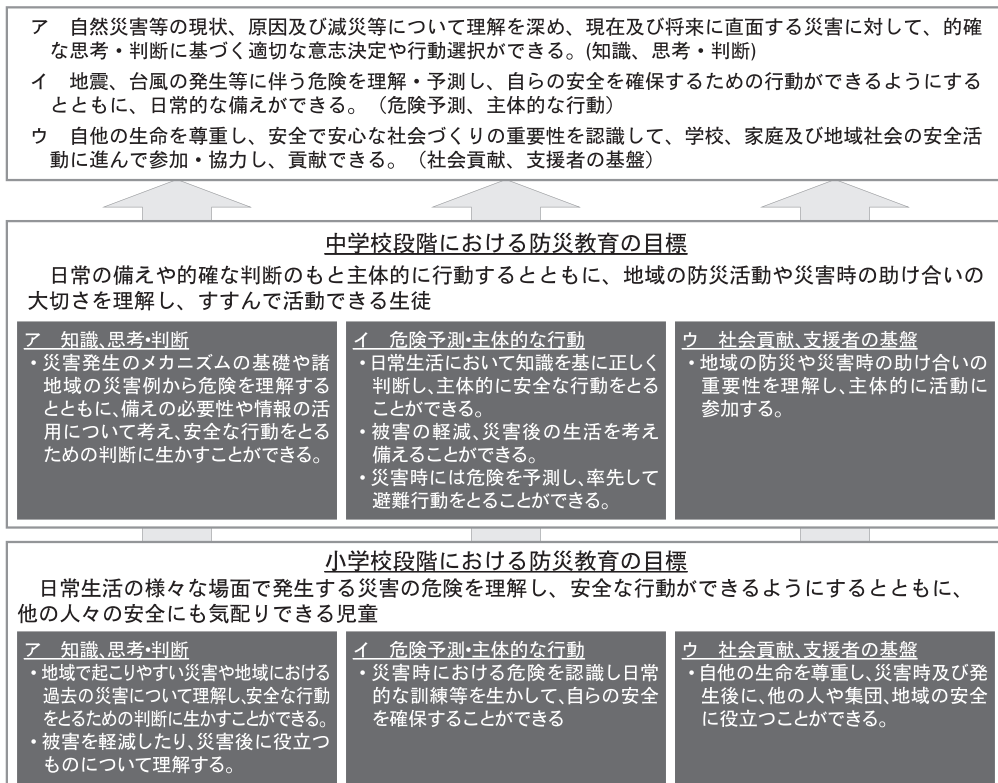


図1 発達段階に応じた防災教育

一方、総合的な学習の時間で防災を内容として取り上げる場合は、地域の課題として探究的に学び資質・能力を育てていく。探究的な学びとして展開していくためには、どのように単元を構想していけばよいのか、実践例を基にその在り方を明らかにしていく。

1. 各学校において定める目標及び内容

(1) 各学校において定める目標とは

各校の総合的な学習の時間の目標は、第1目標を踏まえること、また、「学校教育目標」と照らしあわせて設定することが求められている。

- (1) 「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して」、「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを旨とする」という、目標に示された二つの基本的な考え方を踏まえること。
- (2) 育成を目指す資質・能力については、「育成すべき資質・能力の三つの柱」である「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つのそれぞれについて、第1の目標を踏まえること。

第1目標を踏まえるとは、表1の「二つの要件を適切に反映していれば、これまでの実践の成果や蓄積を生かし、各目標のいずれかを具体化したり、重点化したり、さらに別の要素を付加するなどして、目標を独自のものとする工夫は全面的に許容されるし、推奨されている。」⁶⁾ということであり、学校の独自性を打ち出すことである。

(1) 各学校において定める目標については、各学校における教育目標を踏まえ、総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力を示すこと。⁷⁾

また、各学校における教育目標を踏まえることにより、総合的な学習の時間は、「各学校が育てたいと願う児童の姿や育成すべき資質・能力などを、各学校の創意工夫に基づき自由闊達に描くことが期待されているのであり、学校教育目標と直接的につながるができる」⁸⁾他の教科にない特質であり、同時に総合的な学習の時間は「学校教育目標の実現を目指したカリキュラム・マネジメントの要としての役割」⁹⁾を果たすことになる。

(2) 各学校において定める内容とは

各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の内容を定める。

と、示され、同時に内容の取扱いにおいて「他教科等の目標及び内容との違いに留意しつつ、他教科等で育成を目指す資質・能力との関連を重視すること」「日常生活や社会との関わりを重視すること」「目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力を示すこと」¹⁰⁾と記されている。探究課題とは、探究的に関わりを深める人・もの・ことを示したものであり、児童が「何について学ぶか」を表している。各探究課題との関わりを通して、具体的に「どのようなことができるようになるか」を明らかにしたものが具体的な資質・能力という関係になる。「どのような教材なり問題場面と児童を出会わせ、児童がどのような課題をもって探究的な学習活動を展開していくかを構想する基盤となるものが内容としての探究課題」¹¹⁾である。目標を実現するにふさわしい探究課題として、以下の様に例示されている。

(5) 目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること。¹²⁾

また、それらは、以下の三点を児童・生徒の発達の段階において、適切に実施するものとし

て考えられたものである。

- (1) 探究的な見方・考え方を働かせて学習することがふさわしい課題であること
- (2) その課題をめぐって展開される学習が、横断的・総合的な学習としての性格をもつこと
- (3) その課題を学ぶことにより、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくことに結びついていくような資質・能力の育成が見込めること

防災は、「防災のための安全なまちづくりとその取組」と「地域や学校の特色に応じた課題」で、例示されている。これは、各地域や各学校に固有な諸課題であり、「よりよい郷土の創造に関わって生じる地域ならではの課題であり、児童が地域における自己の生き方との関わりで考え、よりよい解決に向けて地域社会で行動していく」¹³⁾ ことの表れである。児童は、その地域のよさや特色を探究的に学んでいくが、正解や答えが一つに定まっているものではない。その解は、最適解や納得解といわれるものであり、既存の教科等の枠内で適切に扱うことができない。総合的な学習の時間で取り上げることに意義がある。

表3は、各学校で定める「目標と内容と学習内容の関係」¹⁴⁾を示したものである。ここで、防災を探究課題とした実践例を取り上げ、探究的な学習を実現する単元構想の在り方を明らかにしていく。

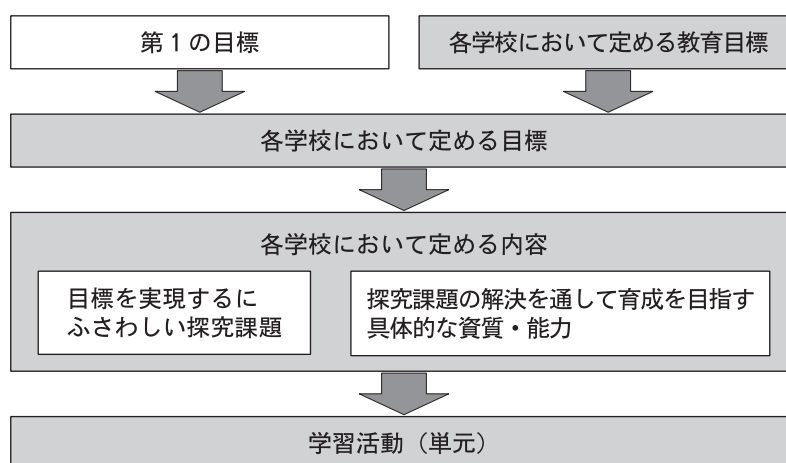


図2 目標と内容と学習活動の関係 (小学校学習指導要領 解説 総合的な学習編を基に作成)

2. 「防災」を探究課題とした総合的な学習の時間の単元の実際

ここでは、成徳小学校の実践をもとに、総合的な学習の時間の目標設定や単元づくりを取り上げ、深い学びにつながる「単元」の在り方について論じていく。

成徳小学校の校区は、「阪神・淡路大震災」で大きな被害を受けた神戸市の中でも、とりわけ被害の激しい地域にある。小学校は避難所となり、授業が再開されるまで一か月以上を要した。25年が過ぎた今では、当時の面影もなく町は復興した姿を見せているが、地域の人々は災

害に強く人々につながるのある町づくりを願って様々な努力を重ねてきた。現在は町に住む多くの人も入れ替わり、当時の意識は薄れてきている。本小学校で「防災教育」に取り組む意義は大きいと考える。

(1) 学校教育目標

笑顔あふれる成徳の子 心豊かな子・ともに学ぶ子・たくましい子

(2) 総合的な学習の時間「成徳タイム」の目標¹⁵⁾

総合的な学習の時間「成徳タイム」の目標		
<p>探究的な見方・考え方を働かせ、身の回りや成徳の町(地域)に目を向け、様々な人とかかわることを通して、自分の設定した課題を粘り強く追究し、自分を見つめ、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。</p>		
知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
<p>(1) 地域の人・もの・ことにかかわる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさが分かり、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることに気付く。</p>	<p>(2) 地域の人・もの・ことの中から問を見だし、その解決に向けて見通しをもって調べ、集めた情報を整理・分析し、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。</p>	<p>(3) 地域の人、もの、ことについて探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、持続可能な社会を実現するための行動の仕方を考え、自ら社会に参画しようとする態度を養う。</p>

(3) 目標を実現するにふさわしい探究課題（防災）と探究課題の解決を通して育成する具体的な資質・能力

本校において定める内容				
学年	目標を実現するにふさわしい探究課題	探究課題の解決を通して育成する具体的な資質・能力		
		知識及び技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
5年	<p>地域の防災のための対策とそれに取り組む仕組みや人々【防災】</p>	<p>成徳の町が阪神淡路大震災で大きな被害を受けたことや、復興に向けての人々の願いから、命を守ることを通して、災害に強い町づくりやコミュニティを形成してきたことが分かる。</p>	<p>「防災」・「減災」という視点から、地域の対策やそれに取り組む人々について様々な方法で調べ、集めた情報の整理・分析をもとに、命を守ることに自分のできることを考え、表現することができる。</p>	<p>様々な人とかかわりながら、より災害に強い町にしていくなために、地域の一員として自分ができることを考えて実践していこうとする。</p>

(4) 学習指導案¹⁶⁾

第5学年1組 総合的な学習の時間指導案

1. 単元名 成徳の町の復興・防災 ～未来の命を守るために～

2. 単元の目標

○成徳の町が阪神淡路大震災で大きな被害を受けたことや、復興に向けて取り組んできた町の人々の想いを知る。(知識・技能)

- 阪神淡路大震災から成徳の町がどのように復興してきたのかを様々な方法で調べ、その情報の整理・分析を通して、成徳の未来を担う自分達にできることを考えていくことができる。(思考・判断・表現)
- 自分達にできる「防災」「減災」についての知識・技能を身に付ける。(知識・技能)
- 成徳の町の「復興」「防災」について様々な人と関わりながら進んで調べ、未来の町を、未来の命を守っていくために自分達ができることを実践していく。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元の構想 (全55時間)

関連する教科等	学 習 活 動	・準備 ○教師の支援 ●評価
<p>道徳『しあわせ運ぼう』 ・阪神淡路大震災について知る。(知・技)</p> <p>国語「話の意図を考えて聞き合い、「きくこと」について考えよう」 ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる。(知・技)</p> <p>・収集した知識や情報を関連づけ、目的や意図に応じて構成を考えながら話す。(思・判・表)</p>	<p>第1次 (12時間) 『成徳の町の復興について知ろう』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校にある石碑やモニュメントの存在を知り、阪神淡路大震災での被害の大体を知ろう。(学年全体) 2.3.4. 人と防災未来センターへ行って、阪神淡路大震災について詳しく知ろう。(学年全体) 5. 見学で学んだことをまとめよう。(個人) 6. 疑問、調べたいことを発表しよう。(全体) 7.8. 成徳の町にある、震災に関する石碑やモニュメントを探してみよう。(東グループ・西グループで地域を二手に分けて、どちらかに参加する。) 9. 疑問、知りたいことを整理しよう。(個人) 10. 班で疑問、知りたいことを整理しよう。(班) 11. 班で調べたいことを決めて発表しよう。(全体) 12. 班で今後の活動計画を立てよう。(班) (2学期に調べたいこと、調べる手段など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・震災に関する地域のモニュメントについての情報を集めておく。 ○石碑やモニュメントの存在を知ることを通して、震災に関心をもてるようにする。 ○神戸市全体の被災状況を知ることを通して、成徳の町はどうだったのかに関心が向くようにする。 ○地域に多数の石碑やモニュメントが存在することを実感しながら知れるように、児童が実際に地域へ出て調査できるようにする。 ○個人→班→全体へとスモールステップをふむことで、活発な話し合い活動になるようにする。 ●神戸市や成徳の町が阪神淡路大震災で大きな被害を受けたことが分かる。【知・技】
<p>国語「敬語」 ・相手や場面による表現の違いについて考えながら話す。(知・技)</p> <p>国語「事実と考えを区別して、活動を報告する文章を書こう。」 ・文章全体の構成の効果を考え、目的や意図に応じてまとめる。(思・判・表)</p>	<p>第2次 (23時間) 『成徳の町の復興・防災について調べよう』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2学期の活動計画を確認しよう。(班) 2.3. 震災当時を知る人々に話を聞くことを通して、成徳の町が当時どのような様子だったのかを知ろう。(全体) 4.5. 地域の石碑やモニュメント、防災・災害対策を見に行こう (班) 6. 当時の様子の分かる写真パネルを見よう。(班) 7.8.9.10. 本やインターネット、取材などから情報を集めよう。(個人・班) 11. 調べた内容を伝える相手を決めよう。(班) 12. 班でまとめるキーワードを決めよう。(班) 13. どのような方法で伝えるのかを決めよう。(班) 14. まとめる内容を整理しよう。(班) 15.16.17.18.19. 伝える相手を意識してまとめよう。(班) 20.21.22. 発表の練習・改善をしよう。(班・全体) 23. 発表をしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・石碑やモニュメントに関する関係機関との連絡を取り情報収集をする。 ・当時の成徳を知る方々に語り部を依頼する。 ○人から話を聞くことを通して、感情に触れることができるようにする。 ○個人→班→全体へとスモールステップをふむことで、活発な話し合い活動になるようにする。 ○考えをまとめる際の手段としての思考ツールを、必要な場面で活用できるように、各教科でも活用する。 ●復興に向けて、町の人々の願いから防災に強い町づくりをしてきたことが分かる。【知・技】 ●「町の復興・防災」という視点から、課題解決に向けて様々な方法で調べ、集めた情報の整理・分析をもとに、自分にできることを考えることができる。【思・判・表】

<p>国語「考えを明確にして話し合い、提案する文章を書こう」</p> <p>国語「意見が対立したときには」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話題に沿って収集した知識や情報を関連づけ、意図をはっきりさせながら計画的に話し合う。(主) <p>国語「伝記を読んで、自分の生き方について考えよう」</p> <p>『百年後のふるさとを守る』</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の経験や考え方と照らし合わせて、描かれている人物や出来事、筆者のものの見方・考え方についての感想をもつ。(主) 	<p>第3次(20時間)</p> <p>『未来の成徳の町を、成徳の町に生きる未来の命を守るためにできることを考えて実践しよう。』</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. これから実践したいことについて話し合おう。(班) 2. 多くの人たちに成徳の町の復興の様子やこれからの防災について知ってもらうために、どのようなことができるのか考えよう。(班) 3. どのような場所で掲示できるのかを考えよう。(班) 4. どのような方法で多くの人を集められるか考えよう。(班) 5. どのような方法で発表ができるか考えよう。(班) 6. カエルキャラバンや人と防災未来センターからヒントをつかもう。(全体) 7. 発表の方法、大体的内容を決めよう。(班) 8. 発表の内容を詳しく決めよう。(班) 9.10.11.12.13. 発表の準備をしよう。(班) 14.15.16. 発表の練習・改善をしよう。(班・全体) 17.18. 発表をしよう。(班・全体) 19. 1年間の学習のふり返りをしよう。(個人) 20. 1年間の学習のふり返りをしよう。(班・全体) 	<p>○「町の誇りは何ですか。」と問いかけることから、魅力ある成徳の町、成徳に生きる人々、自分の命を守っていくために、どのようなことができるのかを具体的に考えられるようにする。</p> <p>○大勢の相手に情報を発信する手段として様々な方法があることを昨年度のキャラバンの映像や人と防災未来センターの取り組みなどから分かるようにする。</p> <p>○「石碑やモニュメントは命を救わない。」単元の導入から学習してきたことをもとに、モニュメントの意義を考えることを通して、「防災とは」を自分の言葉でまとめられるようにする。</p> <p>●「防災」という視点で、集めた情報を発信することができる。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>●様々な人々と関わりながら、未来の町を、未来の命を守るために自分ができることを考え、実行して行く。【主】</p>
---	---	--

4. 防災を探究課題とした単元構想の在り方の考察

防災学習では、被災の事実やこれから起こる災害に対する備え・命を守るための知識やスキルの獲得に重きが置かれる。総合的な学習の時間で防災を探究課題として取り上げ、探究的な学びを実現するために、7つの要点と配慮事項について実践例を探っていく。

(1) 目標設定の明確さ

学校の総合的な学習の目標は、第1目標と学校教育目標を踏まえて設定されており、目標を実現するにふさわしい探究課題と探究課題の解決を通して育成する具体的な資質・能力が明確に位置付けられている。単元の目標は、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度(学びに向かう力・人間性等)」の三つの資質・能力で子どもの具体的な姿を描く。

(2) 探究的な学びの過程とその繰り返し

児童は、本単元で「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の探究のサイクルで学んでいる。また、第1次「成徳の町の復興について知ろう」第2次「成徳の町の復興・防災について調べよう」第3次「未来の成徳の町を、成徳の町に生きる未来の命を守るためにできることを考えて実践しよう」と探究的なサイクルが繰り返されていることが分かる。それぞれの学習活動を通して生まれた子どもの疑問、気付き、願いを新たな課題として設定し、学習者である子どもの興味・関心等を基にした学習が展開され、探究的に学ぶ。

(3) 「自分事」として課題解決に向かう主体性

第1次では、学校や地域にあるモニュメントに着目し、探しながら地域を歩いている。「なぜ、こんなに震災の石碑やモニュメントがあるのか」「誰が何のためにつくったのか」という自分が暮らす町での新たな発見が「自分事」として疑問をもつ気持ちを高めている。「人と防災未来センター」を見学し、阪神淡路大震災について調べ、体感を伴った体験をすることでも「自分事」とする構想がなされている。また、第2次では、再度地域を見て回り、「地域の人々」「役所の人」「大学の先生や学生」「震災を体験した教師」「家の人」「地域の文献」「地域の石碑」「地域の施設」に触れ、震災・復興の中を生きた人々の当時の想いや未来への願いに触れる。そのことが実感を伴った切実な思いや願いをもつことにつながっている。第3次では、「自分達だけ知っていても、多くの命は救えない」という思いから、これから実践したいことを話し合い、発表し、実践につなげていこうとしている。ここでも、自分は地域に住む一員であるという「自分事」として解決していこうとする主体性が発揮されている。自分の暮らす学校や町の想像もつかなかった震災直後の写真を見る。自分の学校・自分の町が学習の対象・場となることで、今まで自分が知っていた町とは異なる認識が生まれ、更に詳しく調べたいという意欲の高まりが期待できる。震災が身近に感じられ、「自分事」となっていく。地域が学習の対象・場となることの意義がここにある。

(4) 見通しと振り返りにより生まれる主体性

第1次では、石碑やモニュメントを探して町を歩いた後の多くの疑問を「震災当時について」「現在の成徳について」「これからの成徳について」と分類している。これにより、子どもが視点をもって学習にかかわることができ、同時に今後の学習の見通しをもつことにつながっている。第2次では、はじめに第1次で立てた学習計画を確認することから2学期の総合の学習が始められている。再度子供達の思いや意思を確認し、見通しをもって活動することで主体性が生まれる。第3次では、発表の大体の内容を決め、次時に詳細を話し合っている。大まかな内容が理解できていることで、見通しをもって詳細について意見を述べるができる。また、時間の終盤に、単元の終わりに、1年間のまとめに、と明確に振り返りの時間を位置付けている。子ども自身が自己の成長・変容に気付くことができ、このことが更なる学習への主体性を生む。

(5) 他者との協働

子供達は、課題解決の過程で、様々な人と出会っている。課題の内容によって班が変わり、その都度、違う友達と学習を共にする。その際に、様々な感じ方や考え方に触れ、多様な思考に出会う。地域の人、震災後の町づくりにおいて反対の立場になる場合もある。自分の住んでいる町には多様な考え方や価値観があることに気付く。

「地域の文献」「石碑やモニュメント」との出会いでは、直接人に出会うことは叶わないが、物の裏に込められた昔の人の想いに出会うことができ、対話をすることができる。様々な形で地域の人にかかわることで、地域の課題と出会い、自分と向き合う。地域の人の想いや願いに共感し、自分は、地域の一員であるという実感が生まれる。それは、地域の一員であるという自

覚に繋がり、同時に地域への親密さや愛着が高まっていく。成徳の震災から復興してきた人々等との学びが、豊かな生活を送ることに繋がってくる。自分が成徳の町の命を守るためにできることを考え、実行していくことは、地域の災害から身を守る町づくりに参画していく態度を養うことに繋がる。

(6) 他教科との関連

単元計画では、道徳・国語との関連的な指導が行われている。他教科で身に付けた知識や技能・思考等を総合的な学習の時間という場で発揮することになる。また、総合的な学習の時間で発揮された教科の学びは、活用という高まりを体験し、実感を伴う体験に裏打ちされた学びとして教科での探究に発揮されることとなる。こうして教科等の学習と総合的な学習の中で行きつ戻りつ発揮された本単元での学びが学校教育の場を離れた日常生活や地域・社会の場で生かされることを少しずつ経験することを通して、子ども自身が「なぜ学ぶのか」を実感する機会となる。さらに、この積み重ねの体験が、将来体験したことの無い課題に直面した時に、解決に向けて未来を切り拓く「学びに向かう力・人間性等」を「涵養」¹⁷⁾することと考える。決して結果を性急に求めることなく、時間をかけ、繰り返し、行きつ戻りつしながら積み重ねていく姿勢を大事にすることが肝要である。

(7) 教師の構え

本単元での指導者の本単元を構想する際の学習に対する確かな構えが学習者の育ちを導いている。

単元計画、第3次の中で、は「これから実践したことを話し合おう」の学習場面では「どのようなことができるのか」「どのような場所で掲示できるのか」「どのような方法で多くの人を集めることができるのか」等、観点を明確にすることで話し合いが活性化する手立てが打たれている。目の前の子どもに対する的確な理解の上になされた手立てである。

また、本単元に対する指導者としての構えは「単元のねらいと教師の願い」に以下の様に記され、垣間見ることができる。

- ・私自身、震災当時は神戸市の小学生であり被災者である。震災当時の神戸市の様子は記憶としてあり、また、教員としての知識もある。しかし、成徳小学校付近の事となると全く知識として無かった。この単元に向かうにあたり、自分の足で地域を巡り、自分の目で確かめ、多くの人や文献と出会うことを、改めて地域での価値ある素材や地域人材発掘の大切さを感じた。
- ・この単元を通して、これまで考えもしなかった震災と地域についての情報を得、当時の人々の想いや復興に向かう中での未来への願いを知り、今まで以上に自分達の住む町に興味・関心・愛着をもってほしい。学習する中で得た情報から、今度は自分達の住む町のために自ら地域に働きかけていくことは、社会の一員・成徳の地域の一員として、防災に対する見方・考え方を深めるとともに、自分と地域との新たな関わりを創り出すことになるだろう。

上記の様に、(1)～(7)は、総合的な学習の時間の探究的な学びの実現に重要な役割を果たす。

本単元を構想するにあたって、深い児童理解がなされるのと同時に、指導者自身が誠実に学習に向き合い、地域と向き合い、自身と向き合っている様子が伝わってくる。総合的な学習の時間の単元構想では、準備等に多くの時間が費やされることを厭う傾向を感じることもあるが、本指導者のような構えが子供達に確かな育ちをもたらすことを確認し、大切にしていきたいと考える。

また、黒上(2016)¹⁸⁾は、「課題設定や整理・分析の手がかりを子どもに与える」で、「質問・疑問マトリクス」を活用する方法を提示している。(表1)このように具体的な視点を指導者が子どもに与えることで、効果的に子ども自身が探究的な課題づくりを行うことが可能となる。

表1 質問・疑問マトリクス (黒上教授提供資料を基にベネッセ教育研究所編集部で作成)

	What 何が?	When& Where いつ・どこで?	Which どれが?	Who だれが?	Why なぜ?	How どのように?
	事項	状況	選択	人	理由	手段
現在	～は何か?	いつ・どこで?	どれが?	だれが? だれに?	なぜ?	どのように?
過去	何が ～したか?	いつ・どこで ～したか?	どれが ～したか?	だれが(に) ～したか?	なぜ ～したか?	どのように ～したか?
意図	何を～たい/ たかったか?	いつ・どこで ～たい/ たかったか?	どれを～たい/ たかったか?	だれに～たい/ たかったか?	なぜ～たい/ たかったか?	どのように ～たい/ たかったか?
可能性	何がありえる /たか?	いつ・どこで ありえる/ たか?	どれがありえる /たか?	だれが(に) ～しえる/ たか?	なぜ～しえる /たか?	どのように ～しえる/ たか?
予想	何が～しそ うか?	いつ・どこで ～しそ うか?	どれが～しそ うか?	だれなら(に) ～しそ うか?	なぜ～しそ うか?	どのように ～しそ うか?
仮定	もし～が起 こったらどう なる/な ったか?	もし[いつ・ どこで]起 こたらどう なる/ なったか?	もし～を選 んだらどう なる/ なったか?	もし～なら どうなる/ な ったか?	もし～が理 由ならどう なる/ な ったか?	もし～のよ うになら たらどう なる/ な ったか?

「可能性」と「予想」はよく似ているが、可能性=ありえるものを考える(実際には起こらなくてもよい)、
予想=実際に起こりそうな予測を考えるという点が異なる。 *黒上教授提供資料を基に編集部で作成

5. まとめ

「防災」を探究課題とした総合的な学習の時間における単元「成徳の町の復興・防災 ～未来の命を守るために～」の実践から、単元構想の在り方を考察した。そこで、阪神淡路大震災で大きな被害を受け、復興をなしとげてきている成徳小学校で「防災」を取り上げた単元では地域のもの・ことや地域の人とかかわることで、課題が「自分事」となり、主体的に課題解決に向かうよさが見られた。また、地域に暮らしている一員としての自覚が生まれ、地域に愛着や誇りをもち、学んだことを発信し、地域に積極的にかかわっていかうとする「社会に参画しようとする態度」を育てていくことにつながることも判明した。「防災」は探究課題として意義をもつことが明確になった。指導者には単元構想の際、自身で地域を回って地域の情報を集め、学習としての価値を見極め、誠実に地域と防災に向き合う姿勢が重要である。

また、各校の総合的な学習の目標と内容を明確に位置付けること、探究的な学びのプロセスを繰り返すこと、自分事として子どもの主体性を生むこと、子どもの学習に対する見通しと振り返りを計画的に位置付けることによって主体性を高めること、他者との協働で多様な考えや価値に出会い、深い学びが生まれる手立てをうつこと、他教科等との関連指導を図り子どもが「なぜ学ぶのか」に気付き、知識や技能・思考等を相互に発揮する仕組みをつくること、児童理解の上に立った探究の手掛がかりを子どもに提供すること等、単元構想の在り方が明らかになった。

気候の変動や気象の激化・大地震の発生等が予測される災害大国といわれるこの国で生きていく子どもたちには、身を守る力や安心して暮らせる町づくりをする力をつけることが求められる。総合的な学習の時間において「予測不可能な時代」に生きて働く確かな力をつける単元の在り方、指導支援の在り方を明らかにして学生の指導力を高めていきたいと考える。

参考文献

- 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』『高等学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な探究の時間編』文部科学省
- 『小学校 新学習指導要領の展開 総合的な学習編』田村学編著 明治図書
- 『学校防災のための参考資料 「生きる」を育む防災教育の展開』平成25年 文部科学省
- 『VIEW21 教育委員会版 2016 vol.2』ベネッセ総合教育研究所
- 『第28回 全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会 兵庫大会 第22回 近畿地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会 兵庫大会 指導案集 兵庫発！！未来への懸け橋 ～子どもが変わる 教師が変わる 学校・地域が変わる～』令和元年11月14日 全国小学校生活科・総合的な学習教育協議会兵庫大会実行委員会

註

- 1) 『小学校学習指導要領（平成29年告示）』第5章 総合的な学習の時間 第2-1・2 文部科学省
- 2) 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』第1章 2-(2)-2 p6 文部科学省
- 3) NHK NEWS WEB 2019年（令和元年）12月22日 日曜日
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20191205/k10012202411000.html>
- 4) 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』平成28年12月21日 中央教育審議会 第1部第5章-5 p42
- 5) 『学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育の展開』文部科学省（平成25年3月）
- 6) 同上
- 7) 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』第3章第3節 3-1 文部科学省
- 8) 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』第3章第3節 3-(1) 文部科学省
- 9) 『小学校学習指導要領（平成29年度版）の展開 総合的な学習編』田村学編著 明治図書 2章-1-2 p.23（奈須正裕）
- 10) 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』第3章第3節(2)(3)(4) 文部科学省
- 11) 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』第3章第3節(4) p27 文部科学省
- 12) 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』第3章第3節(5) 文部科学省
- 13) 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』第5章第3節 2 p75 文部科学省
- 14) 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』第5章第1節 2 p68 文部科学省
- 15) 第28回全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会 兵庫大会 第22回近畿地区小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会 兵庫大会 『指導案集 兵庫発！！未来への懸け橋～子どもが変わる 教師が変わる 学校・地域が変わる～』令和元年11月14日・15日 神戸市立成徳小学校 Ⅲp9
- 16) 文部科学省「教育課程研究指定校事業」（平成29～30年度指定）灘南区域人権教育研究協議会 成徳小学

校 教育研究発表会 平成30年11月16日 神戸市立成徳小学校 5年 成徳の町の復興「未来の命を守るために」古田めぐみ

17) 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』第1章 1-(2)② p3 文部科学省

18) 『VIEW21 教育委員会版 2016 vol.2 実践事例 1 探究的な学習 探究のサイクルを繰り返すことで汎用的な力と深い知識の両方を得る』黒上晴夫 ベネッセ教育総合研究所